

元気で

49

バレーを通じて
人と人がつながるバレーボールで
町を活性化しよう

平成7年、町の合併4周年記念事業として、「バレーボールのまち気高町」をアピールしようと、Vリーグチームの「JTサンダース」と「松下電器パナソニックパンサーズ」を招き大会を開催しました。町のトレーニングセンターで、日本のトップレベルチームによる試合を行うのは言うまでもなく初めて。何のノウハウもない中、企画から大会運営まで中心となつて進めたのが、気高町バレーボール協会でした。何度も



中 田中 洋二 さん

Tanaka Yoji

左 浜本 斉さん

Hamamoto Hitoshi

右 細田 克巳さん

Hosoda Katsumi

気高町バレーボール協会

話し合いやり取りを重ね、その結果、大会は大成のうちに終わることができました。

このことがきっかけとなり、バレーボールで町をさらに活性化しようという声が高まりました。そしてスタートしたのが、今回で10回目となる「鳥取市気高スカロップ杯中学生バレーボール選手権大会」。Vリーグチームの招待試合を行った1年半後の平成9年3月のことでした。英語で帆立貝を意味するスカロップの名は、地域にふさわしいものにとしようと、全国的にも有名な「貝がら節」にちなんだものです。

毎年3月の第4土・日曜日の2日間に渡って開催されるスカロップ杯には、男女それぞれ県内から6チーム、中国地方の各県から1チーム、そして四国地方からは2チームの計24チームが参加。地元以外のチームについては選手やその保護者も、浜村温泉に宿泊します。そのため温泉街の旅館や店舗は、ポスターや歓迎のピラを貼るなどして、選手たちを町全体で温かく迎え入れます。試合で汗をかいた後は、浜村のお湯に浸かつて、チーム同士の交流の輪も広がっています。

田中会長は「県外のチーム

を気高町に招くことができたのは、中学校バレー部の指導者の強力なネットワークがあったから」とおっしゃいます。また、気高中学校で27年間指導している細田理事長は「ここまでくれたのも、立ち上げ当時の気高中学校の先生の熱意があつてこそ。この大会は町の活性化はもとより、県全体のバレーボールの強化にもつながっている」と自信をもつて話されます。

現役からOBまで

大会は準備から運営まですべて、協会の役員がボランティアで行っています。協会は約